

## 第28回スポーツ・ボランティア・リレートーク レポート

2013年11月22日（金）

仙台市青葉体育館会議室

参加者 22名

「スポーツコミッションって何？」

～ 海外や日本の事例をふまえて

講師 仙台大学 助教 柴田 恵里香 氏



### 【はじめに】

こんばんは、柴田です。4月からは弓田になります。(拍手・おめでとうの声)  
今日はスポーツコミッションについて話させていただきます。途中、みなさんと一緒に考える場も作りたいと思いますのでよろしくお願いします。さっそくですがみなさんに質問です。

最初の質問です。「きれいなまちは？」と聞かれたらどこを思い浮かべますか。

～ 「京都・仙台など」と回答あり

次の質問です、「スキー場」と聞いて思い浮かぶ県はどこですか。

～ 「長野・北海道・山形など」と回答あり

では、「大阪」と聞いて思い浮かぶものや言葉はなんですか。

～ 「たこ焼き・にぎやか・大阪城など」と回答あり

私は関西出身なので「よくしゃべる」「にぎやか」というイメージはよくわかります。笑  
さて、都市や地域のイメージはある枠組みと関係があるのですが、このことをこれから考えてみたいと思います。

### 【地域社会の変化について】

今、地域社会にはさまざまな変化が起きています。「少子高齢化」「人口の流出や過疎化」「生活や価値観の欧米化」などでライフスタイルの変化が大きくなっています。一方で「産業の衰退による模索」をしている地域もあれば、生き方として「内向き志向や無関心」

の層が増えていて、「情報と交流のあり方」が課題となっている地域もあります。さらに日本の総人口は減少を続けており人の集まる「魅力的なまち」をめざし、都市マーケティングに取り組む地域が増えていきます。都市マーケティングとは地域の価値や魅力を創造したり再発見したりすることで、その魅力を地域内外に効果的に発信していくことです。このような活動を行うことで「訪れたい、買いたい、支えたい、住みたい街へ」というサイクルを創ることが可能だと考えられています。これは「転入人口増や交流人口増が狙い」ですが、では、この交流人口を増やすためにどうするか、という取組のために2008年に観光庁が設置されました。人が移動することに注目し既存資源を活用した事業として観光は比較的健全な経済活動といえます。その中で人気を集めているのが「体験型のニューツーリズム」ですが、特に「スポーツツーリズム」は大会関心を集めています。「スポーツツーリズム」とは通常的生活圏外へスポーツを主目的に出向き、そこに滞在し消費すること(する・みる・訪問する・支えるなど)の活動を指します。

「スポーツツーリズムの可能性」ですが、スポーツには固有の社会的インパクトがあり、大きなスポーツイベントや合宿をはじめ「目的型ツーリズム」として潜在的な市場があることとされています。さらに持続可能な産業として注目されており、その効果として「社会資本の蓄積」・「経済的波及効果」・「住民意識の向上」・「地域イメージの向上」などが見込まれます。近年、スポーツイベントの増加、とりわけ東京マラソンの成功を受けて参加型の大会が急激に増えていることから、スポーツには地域から地域に人を動かす力があることがはっきりしています。交流人口を増やすことでお金も動き地域が活性化されることとなります。

私たちが調査した2013年の仙台国際ハーフマラソンの参加者アンケートでは、遠方からの参加者が交通費や宿泊費だけではなく、飲食費や買い物・娯楽費などでも開催地で多く消費していることがみられました。

こうした変化の中で重要なのは「地域内外のバランス」で、域外の人に対してだけでなく域内の市民に対しても情報を提供し、そこに住む人にとって愛着やプライドを感じてもらうことです。さらに一過性ではなく継続的なものとするためには「市民の幸福の最大化」につながる大切です。そうすることで自然な「おもてなし」が生まれるのだと思います。また、従来は出発地で旅行商品が企画されていましたが、画一的で新鮮味に欠けることから、最近では目的地で住んでいるからこそわかる資源や魅力をベースにした「着地型旅行商品」に期待が高まっています。日本には豊かな自然があり森林や島が多く、全国にスポーツ施設が多くあり、治安も良く社会情勢も安定しています。こうした点を広く情報発信していくことが必要なのです。

## 【仙台のSWOT分析】

さて、ここで少し再びみなさんに考えていただきます。「みなさんが考える仙台の良い点、悪い点」は何か、「課題、お勧めできない点」はどんなところでしょうか。

<良い点>

プロスポーツチームがあること・都市景観が良い・自然環境・イベントが多い

<悪い点>

運転マナー・交通アクセス・観光ポイントが少ない・そこへのアクセスも良くない

いろいろと御意見ありがとうございます。課題もありますが発想をかえるとそこにチャンスや魅力も生まれてきます。この点については次の「スポーツコミッション」のところでもお話ししたいと思います。



#### 【スポーツコミッションについて】

アメリカの中西部にインディアナポリスという都市があります。このまちでは車などの伝統産業が衰退し都市のスラム化が進行し課題となっていました。そこで都市の再生化に市長が着手をしました。何を軸にするかという議論の中で、もともと教育や芸術文化が盛んだったのですが、最終的にスポーツ、特にアマチュアスポーツの都市をめざすことにしたのです。そこで大きな役割を果たしたのが「スポーツツーリズムの考え方」と「スポーツコミッションの存在」でした。

スポーツコミッションというものについては、先行しているフィルムコミッションのことを説明するとわかりやすいと思います。フィルムコミッションという言葉は割と聞いたことがあると思いますが、「国内外の映画などのロケを誘致し、地域の経済・観光・文化振興に貢献する」活動をしています。地元の情報をしっかりと把握し情報を提供したり、人や物の準備、公共機関への働きかけをしたりします。結果として「街の魅力化」や「資源・魅力の再発見」につながることもあり、その一例として映画「おくりびと」を誘致した「酒田ロケーションBOX」などが証明しています。

つまり「スポーツコミッション」は「地域の資源を最大限に活用したスポーツのプロモ

ーションであり、イベントの企画・運営・マーケティングや、地域の活性化に役立つスポーツイベントの誘致」などを行います。このベースには地域のスポーツ振興があり、その上でイベント誘致・運営のほか、観光連携・広報PRまでの全体を調整する役割も持っています。一般的な組織形態としては、独立した非営利組織・地域 CVB(会議・観光局の一部)・行政機関などがあり、スタッフ数や規模もさまざまです。

### 【各地の事例】

世界で初めて設立されたスポーツコミッションは1979年の「インディアナポリス・スポーツ・コーポレーション」であり、背景には重工産業の空洞化による街の空洞化・スラム化がありました。「アマチュアスポーツの首都」をめざし組織を立ち上げ、さまざまな優遇処置を講じて多くの国際大会の誘致や多くの統括団体の本部の移転、プロチームを誘致し、地域経済の活性化に成功しました。次世代へのつなぎとして自然とスポーツが身の回りにある環境ができでいて、子供でも好成績を残すと学校で紹介されたり資金的な援助がうけられたりする仕組みがあります。

アメリカには650以上の会員を持つ「全米スポーツコミッション協会」があり、スポーツのライセンスホルダーと開催地との懸け橋としてイベント誘致や企画、運営などのノウハウ提供をしています。また、「全米スポーツイベントシンポジウム」が開催されており、そこでビジネスがおこなわれています。カナダはスポーツ観光地として国際市場に売り込むことを目的に「カナディアンズ・スポーツツーリズム・アライアンス」を設立し、多くの会員を集めて成功事例の共有や経済効果の測定なども行っています。

国内では2011年に「さいたまスポーツコミッション」が設立され、施設や立地をいかしてスポーツイベントを誘致し、bjリーグのオールスターゲームなどの実績が生まれています。2012年には「スポーツコミッション関西」が設立され、地域色をいかしながら2021年のワールドマスターズゲームズの誘致に成功しています。他にも県レベルでは初の「佐賀県スポーツコミッション」、行政からは独立した形で誕生した「十日町市スポーツコミッション」、文化とスポーツを両輪とした「新潟文化・スポーツコミッション」があり、沖縄県ではプロスポーツのキャンプ実績をいかしてスポーツコミッションの設立準備をしています。

### 【まとめと質疑】

これからに向けてはそれぞれの地域にあう組織形態をどのようにするかということや、イベントの運営だけではスポーツツーリストの満足・リピートにはつながらないため、地域全体としての取組をどうするかを考えていく必要があります。何より、日本ではまだ短期間の観光が主流でありスポーツを通じたレジャーという意識が乏しいこと、地域にとってはスポーツインフラが不足しており地域の特色にかけるため、スポーツツーリズムが低

調という現状があります。この解決のためには、国や行政で取り組む大枠とは別に、前半でみなさんに考えていただいた自分達の地域の強みや弱みをしっかりと把握・理解し、特に良い点やターゲットを明確にしてアピールする必要があります。本日は一回目ということで「スポーツコミッションとは」という基本的な部分をお話させていただきました。私自身にとっても最も関心のあるテーマでありますので、ぜひこれからも一緒に学んでいければと思います。ありがとうございました。

質問 インディアナポリスが成功した理由は为什么呢。

回答 参加型のスポーツの大きなイベントを最初に開催できたことと、アメリカ特有のものかもしれませんが、複数年での開催に関する契約ができたことが大きかったと思います。

質問 主催団体の本部を持ってくるためにはどうすればいいのでしょうか。

回答 大きな団体だけを対象とするのではなく、仙台に魅力を感じるニュースポーツも含めた小さな種目（団体）からアプローチし、実績を創っていくことも可能だと感じます。

質問 ホームステイも課題ではないか、さいたまでボランティアをした際には宿泊施設に問題がありました。

回答 地域の方々の協力という場合には、どこをターゲットするかによって住民の人がどのように関わり、関わることによってどのようなメリットが得られるかを示せないといけないと思います。

質問 アマチュアレベルでは宮城は決して強くはないが、今後についてコミッションとのかかわりの中でどう考えますか。

回答 宮城に限らず日本では家庭など身近な所でスポーツをする文化が根付いていないように感じます。今後は子供のころから競技としてのスポーツだけではなく、レジャーとしてのスポーツも楽しめる機会を増やしていく必要があると思います。何かスポーツをする際に子どもの頃訪れていた場所は、その人にとって一生そのスポーツにおけるメッカとして印象づけられるはずです。まずはスポーツコミッションがそのような〇〇のメッカを目指す取り組みをしてもいいのではないのでしょうか。

<文責 泉田>